

“健康投資について” ～（株）フジクラの事例～

2014年 2月14日@経済産業省 大臣官房特別会議室



株式会社フジクラ

人事・総務部 健康経営推進室

浅野 健一郎

健康投資の論点

1. 投資対効果について

- － 何を指標としているか？

2. 健康状態の客観視について

- － 課題認識ときっかけは？

3. 経営層、保険者への働きかけについて

- － どのように巻き込んだか？

投資対効果について

指標とその評価方法

何を目的として活動を行うか？

—各ステークホルダーの目的の整合—

投資対効果を考える場合、活動のゴールを
何に設定するか？で指標は変わる

【各ステークホルダ】

- 経営層
- 健康保険組合
- 人事・総務部
- 個人（従業員）

【一般的な指標項目】

- 経営コストの視点：労働生産性向上等
- 医療費の視点：生活習慣病予防等
- 法律の視点：安全衛生、安全・健康配慮等
- QOLの視点：楽しく豊かな生活等

私が目指す経営（現社長）

[基本]

- “第三の創業”の企業風土を受け継ぎ協力を推進する。
- “収益性を重視”し、健全な成長を図る。
- 目標を共有し、“チームアプローチ”でゴールを目指す。

[ゴール イメージ]

お客様からは感謝され、
社会からは高く評価され、

社員が生き生きと仕事している

(株) フジクラの場合

—多様な視点の投資効果の指標化—

各ステークホルダーの目的からの多様な側面での投資効果指標を各ステークホルダーと共有化して、活動を効果的且つ効率的、継続的に運用していくシステムを構築しています。

【方針】

- 個人が「生き生きと仕事や生活ができる」ことを目指す
 - ★心身の健康
 - ★環境整備
- 会社の中長期の視点で「投資回収」できることを目指す
 - ★費用対効果
 - ★対処より予防

【主な指標項目】

- コストの視点：医療費、労働生産性等
- 社員の健康状態の視点：
率 健康マップ（リスクマップ）、有所見率、メタボ対象者数、喫煙者
- 健康増進プログラムの運用の視点：
プログラム登録者率、サイト利用率、イベント参加率等
- 外部の視点：健康寿命を伸ばそうアワード、健康経営評価

経営視点での指標

- 労働生産性の指標化：プレゼンティーズム
 - 慢性疾患等による生産性低下（マイナス）
- 社員の元気度の指標化：生き生き度
 - より活性されたプラスの状態（ワークエンゲージメント）

評価方法は、質問票によるアンケート調査（定期的に実施）

健康状態の客観視について

課題認識と取り組みのきっかけ

課題認識ときっかけ

- 中期計画立案プロジェクト
 - 事業計画を立案・・・でも実現させるのは人

心身ともに健康でないと実現させることはできない

- 会社のゴールイメージ
 - 生き生きと仕事している・・・かけ声だけでは実現できない

生き生き化についても具体的な施策・計画が必要

課題認識の特徴（経営視点）

- 事業活動の活性化への投資
 - － 事業計画の達成に向けての人財観点の施策
- 企業存続への投資
 - － 新規事業創出・新陳代謝促進に向けた人財開発

経営の中長期課題の実現に向けたアプローチ

経営層、保険者への 働きかけについて

関係者とどのように巻き込んだか

取り組みの経過

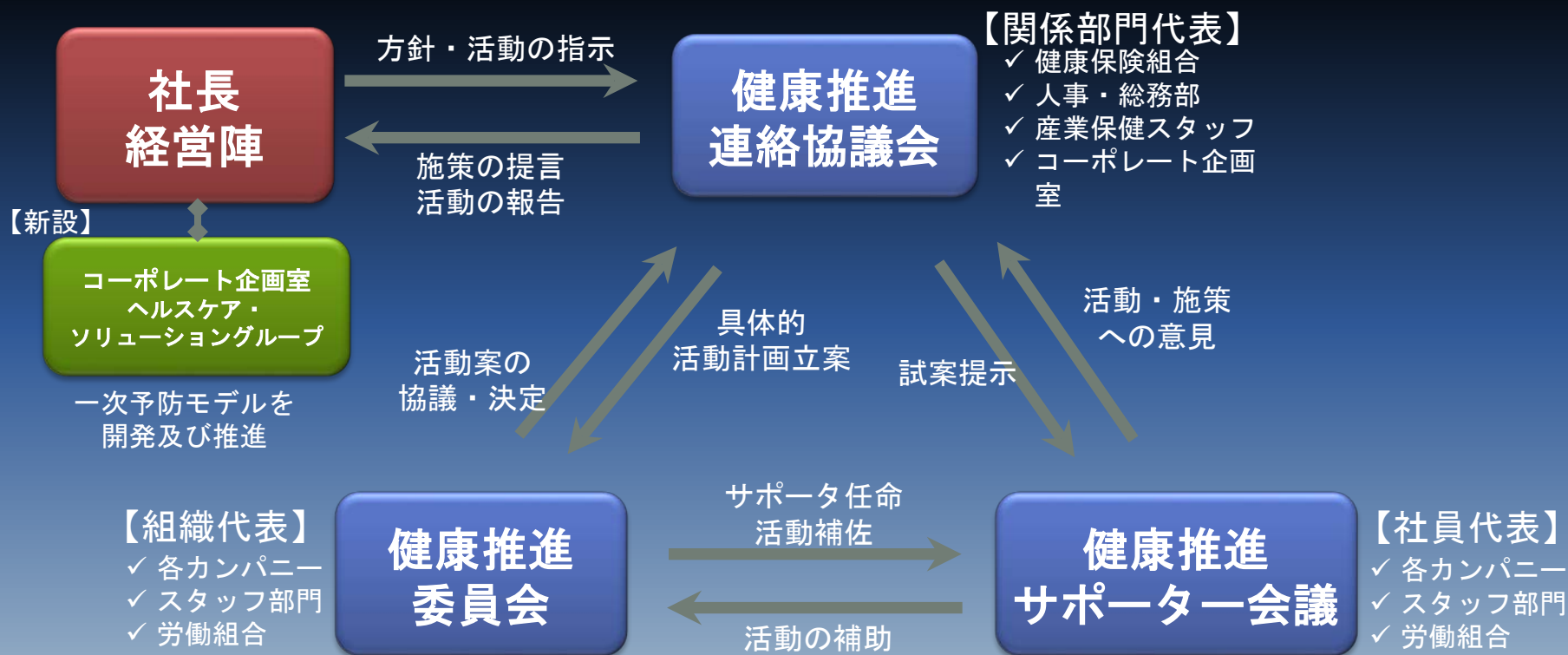
実施年	主な実施内容
2010年度	健康増進・疾病予防を重点テーマに社内決定
2011年度	コーポレート企画室内にヘルスケア・ソリューショングループを設置。予防プログラムの自社開発開始
2012年度	新たな全社健康推進体制を整備開始 一部地区を対象に予防プログラムの試運用開始
2013年度	全社健康推進体制の確立 1次予防から3次予防までを展開

関係者の巻き込み 1

1. 中期計画プロジェクトから自然発生的に生き生き（健康・元気）プロジェクトが発足
 - － 若手中心で自主的な活動開始
2. 社長との意見交換を実施
 - － 活動の目的とゴールイメージの共有
3. 経営会議で健康投資に関する答申
 - － 経営層と健康経営の期待効果の共有化

関係者の巻き込み2

4. 健康保険組合、人事・総務部、産業保健スタッフ、労組、カンパニー、従業員との新協議体制を構築



フジクラの健康経営

—健康は経営課題—

フジクラグループでは、従業員の健康を重要な経営課題と捉え、経営として取組むことを明言して、会社・社員・健保組合一丸となって、健康増進・疾病予防に取り組んでいます。

【フジクラグループ健康経営宣言】

2014年1月1日

フジクラグループは、社員の健康を重要な経営資源の一つであると捉え、個人の自発的な健康活動に対する積極的な支援と、組織的な健康活動の推進で、「お客様からは感謝され、社会から高く評価され、社員は生き生きと仕事をしている」企業グループを目指します。

ご清聴ありがとうございました